デジタル版
2025年
08月21日号
Vol. 172

成岡マネジメントオフィス事務所通信

NMO OfficeLetter

京都市内にLRTが走る？

宇都宮市LRT

先日開催された京都の経済人の会合で、京都市内にLRT（ライトレールトランジット：Light Rail Transit 日本語訳は次世代型路面電車）を導入してはどうかという案が真剣に議論された。周回道路（北大路・西大路・九条・東山）の各通りにLRTを走らせ、市内中心部に小型バスを走らす。観光と生活を分けた交通網の整備につながり、オーバーツーリズム対策にもなると積極的に推進する意見が多かった。投資総額の概算では1000億円と見積もられ、そのうち半分を国の補助金で補填する。残り500億円は地元が負担するという案だ。

＜解説＞LRTはまず富山市内に初めて導入された。富山駅前から市内各所に線路が敷設されている。低床で高齢者の乗降にも配慮されている。当時、この導入を推進した富山市の市長は40歳台。若い発想で周囲の反対にもくじけず、事業を軌道に乗せた。昔の路面電車、市電と共通するコンセプトだ。その後、最近では2024年に栃木県宇都宮市に導入され、当初の赤字予想を裏切って、初年度から高収益を挙げている。国内で路面電車が復活したのは、75年ぶり。宇都宮市内には製造業の工場が多くあり、工業団地がある。宇都宮市のLRTは、駅東口から隣接の町の工業団地までの約15キロを結んで、線路をすべて新設した。1編成3台の車両を連結し、低い床、バリアフリー仕様で、車いすやベビーカーも簡単に利用できる。一度に多くの乗客を運ぶことができ、ヨーロッパでは各都市で走行する風景をよく見かける。平日の利用者は想定の1万2000人、週末は想定の2倍を超える約1万人の利用がある。移動手段を車に依存しない街づくりの一環で、このまま高齢化が進むと、

富山市LRT

懐かしの京都市電

高齢者が外出しない機会が増えるとの懸念もあった。中心市街地の活性化にも貢献している。沿線に住む人たちに向けて、停留所を中心にバス路線を新しく編成した。LRTが交通の動脈とすれば、バス路線を毛細血管に位置付けた。課題は、バスとLRTの接続。バス路線も少ない時間帯は1時間に1本になり、地区によっては当初想定の4分の1以下になっている。乗り合いタクシーの利用も低調だ。宇都宮市では、将来に向けた息の長い運営を目指しており、内外からも高い注目を集めている。LRTの活用が今後の地域活性化のひとつの答えになるとされている。

BUSINESS MANAGEMENT&COORDINATION
株式会社成岡マネジメントオフィス
〒616-8104 京都市右京区太秦下刑部町170
プレサンスロジェ太秦天神川駅前613
TEL:075-366-6611 FAX:075-366-6100 info@nmo.ne.jp

Copyright (C) Naruoka Management Office. All rights reserved.